

昭和27年1月11日
第三種郵便物認可第781号
令和2年11月25日発行
(毎月25日発行)

福祉だより 信州

社会福祉 HERO'S vol.07

身近な技術で、福祉・介護の課題解決を。
さわやかな刺激をくれる学生チーム。

詳しくは巻末をご覧ください。



特集

「ともに生きる」を発信する
信州ふっころフェスティバル2020年11月3日開催!

No.

781

2020 12月号

「ともに生きる」を発信する

初の!

信州ふっころるフェスティバル 2020

県内の福祉関係団体とともに歩む方向性を示した長野県地域福祉活動計画「信州ふっころるプラン」を手に、様々な個性と可能性を持った人々が、共生とふくしの未来をみんなで感じることのできる信州ふっころるフェスティバル2020を開催しました。
11月3日に開催したフェスティバルの各コンテンツは
ホームページで配信
しています。
ぜひご覧ください。



地域共生応援大使
ふっころる

「ともに創る」地域共生社会を目指して。
昨年の東日本台風災害による千曲川流域の被災、そして新型コロナウイルス感染症によって断たれた人と人とのつながり。少子高齢化の進展や非正規雇用の増加とこれらに起因する貧困など地域の生活課題と相まって、社会全体が閉塞感に苛まれる「いまだからこ」も「ともに生きる」。

〔併催〕第69回長野県社会福祉大会
令和2年度「介護の日」県民の集い

「介護の日」スペシャルトーク



進行は、神谷典成さん(社会福祉法人北アルプスの風理事長)。神谷さん自身、長野市社会福祉専門学校の卒業生で、現在は、社会福祉法人のリーダーとして活躍しています。

福祉・介護の
魅力を発信!



●介護の日スペシャルトーク

福祉介護職を目指し養成校に通う3人の学生と阿部長野県知事がトークセッション。

学校で学ぶこと以外にも実習先で利用者さんや福祉介護職の先輩から学ぶこと、体験で学ぶ姿に阿部知

事からは「とても頼もしくて、謙虚な姿に感銘を受けた。人と人とのコミュニケーションが必要な福祉介護職は今後重要な仕事として残るはず。やさしさと希望を伝える専門職になってほしい」とエールをいただきました。

相手の良いところを引き出すために自分が笑顔でいることを心掛けた(佐久短期大学の畔上和也さん)



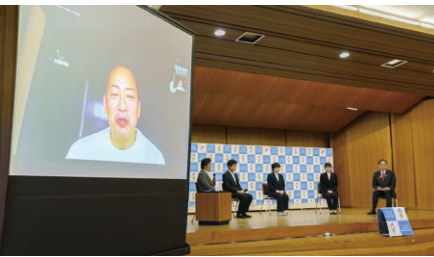
利用者さんや先輩から学ぶ姿勢と寄り添うことを忘れないようにしたい(松本短期大学の小山莉央さん)



保育学科の実習を通じて人とどう接しているのか学びたいと思いつた(長野県福祉大学の茅野冬乃さん)



当たり前のことを当たり前にするのが福祉現場で働く第1歩(社会福祉法人佛子園雄谷長成理事長)



笑顔は本人も家族も笑顔になる。世代をつなぐ橋渡しを(阿部守一長野県知事)



地域や福祉の「課題」 解決にチャレンジ!



「アイデアコンテスト」には、高校生、大学生等80チーム、約300人が参加。技術やデザインなど様々な分野の学びを活かし福祉の課題解決のアイデアを競いました。

初開催となった「ケアコン」では、若手介護職や介護を学ぶ学生が「その人にあったレクリエーション」を提案。両コンテストともオンラインで審査会を実施し、この日表彰式を行いました。

長野県社会福祉協議会会長表彰
長野県共同募金会会長表彰
長野県民生委員児童委員協議会連合会会長表彰

ボランティア団体

絵てがみ「草の根」	辰野町
手話ミュージック リュシオール	辰野町
寄ってなん処	辰野町
朗読グループ「ひびき」	辰野町
ゆっ栗の会	小布施町

スペシャル映像 表彰者の横顔 ▶

第1回長野県介護技術コンテスト

社会福祉法人ハーモニー福祉会
チームレインボー

信州共生みらいアイデアコンテスト2020

【アイデア部門】
 上田千曲高等学校
 OHT～おしごとひろめ隊～
 「障がいのある人たちの「仕事」
 魅力的な「商品」を社会に
 広めるための提案」

【ものづくり部門】
 駒ヶ根工業高等学校
 イッサとマブダチ
 「リフターProject」
 福祉車両の車いすリフターの応用
 作品を制作し提案

▲立科町役場企画課の上前知洋さん(左)からテレワークの取組を紹介。「テレワークが社会とつながるきっかけとなって、多様な人と情報が集まることになった」

コロナ禍の中で生まれた新たな可能性として注目された「テレワーク」で、引きこもりや子育て世代などの活躍の場として取り組む立科町の実践と、誰もが役割のあるごちやまぜの地域づくりを実践する石川県のB's行善寺の取組を通じて共生の地域づくりの視点を共有しました。

B's行善寺の速水健二代表(右)より支援されるを超えた役割のあるまちづくりを紹介。「まちの人を施設に呼んで、いかに福祉のエッセンスを振りかけるかが、ごちやまぜの地域づくりのヒントになる」

「福祉のお仕事」
インスタPR動画大賞

21の福祉事業所が、インスタグラムに挑戦。利用者との日常や仕事の魅力を発信しました。県民の皆様からの「いいね」でこのほど大賞が決定しました。

PR動画大賞に選ばれた「りんどう保育園」(長野市)の作品

長野復興ちゃんねる

昨年の東日本台風で被災した長野市長沼地区から、被災地の「今」の原動力となった「ON ENAGANO」の取組をふりかえり、未来に向けたメッセージが発信されました。

住民、NPO、災害ボランティアセンター、さええあいセンターが出演

多分野と連携
「ごちやまぜ」パワー!

まちづくり×福祉

●シンポジウム
 「ウィズコロナと共生の地域づくり」

eスポーツ×ふくし
 ユニバーサル・スポーツとして人気が高まりつつあるeスポーツ。
 40名の愛好者と5名の障がいのある参加者が手加減なしのトーナメントで競いました。

配信では解説や実況で対戦を盛り上げていました



進め！
信州ふっころ
長野県地域
福祉活動計画
Vol.6 企画紹介

I 「ともに生きる」を発信する

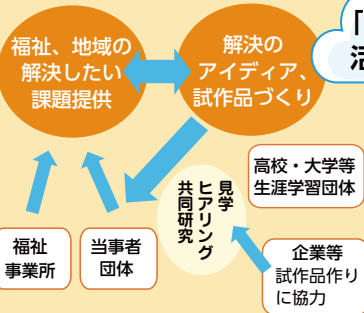
② 福祉・介護の魅力発信とイノベーションの促進

◎若者たちのアイデアを積極的に採り入れ、福祉・介護の魅力を発信し、学びとイノベーションを促進します

■ 取組イメージ

「福祉・介護の魅力発信」「学びとイノベーションの促進」

共生みらいアイデアコンテスト



福祉の学びのプラットフォームづくり

信州ふっころフェスティバル



- 長野県社会福祉大会
- 「介護の日」県民の集い
- アイデアコンテスト審査・表彰等

福祉関係者 福祉当事者 学生、教育関係者 企業関係者

幅広い県民の参加

「クラウド」活用の促進

福祉・介護の仕事の人材確保やそのためのイメージアップ活動は、プランの重点テーマの一つです。教

育分野で「探求的な学習」がスタートしたこともふまえ、福祉・介護の「ファンを増やす」ため、多様な分野で学ぶ若者たちを対象にコンテスト等を共同開催します。

また、各地の地域づくり、まちづくりりに社会福祉法人等が貢献しながら、産・学・福の連携を広げていくことを目指しています。

りんご通信

令和元年東日本台風災害 復興の取組

地域ささえあい溪月（佐久穂町）

佐久穂町にある被災地区では、その地にかつてあったお寺の庵の名前を掲げた、お弁当作りによるささえあい活動に取り組んでいます。

毎月第3火曜日、地域の方が公民館に集まり調理を始めます。手際も良いですが、お話も達者で、手を止めず近況を話し合います。「コロナでなければ皆で集まって食べて、お茶がしたい」と、皆さんはよく話しながら、出来上がった料理をパックに詰め、彩りの良いお弁当が出来上がっていきます。出来上がったお弁当は、被災されたお宅や台所がまだ使えないお宅、そして一人暮らしの高齢者のお宅へ届けられます。月に1度の活動ですが、配達の際には、近況を語り合えるなど、ゆるやかな見守りによるささえあい活動が定着してきました。



出来上がったお弁当は昔ながらのバスケットへ

この地区は、もともとご近所同士の「お裾分け」が盛んに行われていました。さらに、昨年の台風災害の際には停電や断水の発生、温かいものを食べたいという地域の声から、地区内外の力を借りて炊き出しを行ったことが、今日の活動のきっかけとなっています。

「みんなに会いたくてやっている」と参加者は話します。このことが、継続したささえあい活動の原動力になっています。



賑やかに手際よくお弁当が出来上がっていく



地区の方へ振る舞い、近況を聞く

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和2年度

ボランティア活動保険

全国200万人
加入!!

保険金額・年間保険料（1名あたり）

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	
	手術 入院中の手術		65,000円	
	保険金 外来の手術		32,500円	
	通院保険金日額		4,000円	
賠償責任の補償	地震・噴火・津波による死傷		×	○
	賠償責任保険金(対人・対物共通)		5億円(限度額)	
年間保険料			350円	500円

＜基本プランに加入される方へ＞

基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。

※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

商品パンフレットは
コチラ
(ふくしの保険ホームページ)



ボランティア行事用保険

送迎サービス補償

福祉サービス総合補償

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

(傷害保険)

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 ▶ **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**
 (引受幹事 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
 保険会社) TEL: 03(3349)5137
 受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)
 損保ジャパン日本興亜は、関係当局の認可等を前提として、2020年4月1日に商号を変更し、「損保ジャパン」になります。

取扱代理店 ▶ **株式会社 福祉保険サービス**
 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
 営業時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)
 この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

(SJK19-12918 2020.2.10作成)

令和2年度
社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の

事故・紛争円満解決のために!

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険等)

1 基本補償(賠償・見舞)

▶ 保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
傷害見舞費用		死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円	

▶ 年額保険料(掛金)

定員		基本補償(A型)
補基本	1~50名	35,000~61,460円
備A型	51~100名	68,270~97,000円
付見	100名以降1名~10名増ごと	1,500円
補舞	基本補償(A型)	【見舞費用加算】 定員1名あたり 入所: 1,300円 通所: 1,390円
償用	保険料	

プラン2 施設利用者の補償

プラン3 施設職員の補償

プラン4 社会福祉法人役員等の補償



スケールメリットを活かした
充実した補償と
割安な保険料
です。

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用慣行賠償責任保険、役員賠償責任保険、個人情報取扱事業者賠償責任保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。●

団体契約者 ▶ **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**
 (引受幹事 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
 保険会社) TEL: 03(3349)5137
 受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)
 損保ジャパン日本興亜は、関係当局の認可等を前提として、2020年4月1日に商号を変更し、「損保ジャパン」になります。

取扱代理店 ▶ **株式会社 福祉保険サービス**
 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
 受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

(SJK19-14131 2020.2.7作成)

すべての子どもが夢を持って生きる力を育めるように!

生活困窮家庭の子どもに対する学習・生活支援事業

県では平成29年度から生活困窮者自立支援の一つである「子どもの学習・生活支援事業」に取り組んでいます。町村部の事業を所管する県地域福祉課で学習支援推進員として活動されている西澤さんに、これまでの取組内容などについてお話を伺いました。

■まずは、事業の内容を教えてください。

「子どもの学習・生活支援事業」は、貧困の連鎖の防止を目的に、今年度は15市が実施するとともに、県では17町村1郡で一部の事業を町村社会福祉協議会等に委託しています(表1)。不登校やひきこもり状態の小中学生から高校生世代の子どもを対象とし、県では訪問支援によるフルオーダーメイドの学習支援など、地域の皆さんの力を借りながら、子どもたちのサポートに取り組んでいます。

〔表1〕

実施町村			
長野市	飯山市	御代田町	木曾郡
松本市	茅野市	富士見町	山形村
上田市	佐久市	辰野町	池田町
諏訪市	千曲市	箕輪町	松川村
須坂市	東御市	飯島町	坂城町
伊那市	安曇野市	南箕輪村	山ノ内町
駒ケ根市		高森町	木島平村
中野市		喬木村	飯綱町
大町市		豊丘村	小川村

■関わっている子どもや世帯の状況を教えてください。

昨年度、県が支援した53人の子どもの世帯状況(表2)は、ひとり親世帯が半数を占めていました。両親がいる世帯では経済的な貧困が見えにくく、親自身が地域から孤立しているなど環境や社会性の貧困が見られていました。世帯には、何かしらの課題(表3)があり、子どもにも生活習慣や生活リズムの乱れなどの影響が出ています。例えば、登校するための持ち物が揃わない、宿題ができていない、朝食を摂れない、弟妹の面倒を見ているなど、登校の準備ができないばかりか学習をする環境が整わない状況です。そのため、学校に行きづらくなり不登校になってしまいます。そうした子どもは、家庭や学校にも居場所がなく自己肯定感も低くなっていることから、子どもへのサポートを入りに保護者とも関係性を構築しながら世帯丸ごとの支援を行っていきます。

〔表2〕

世帯状況(重複あり)	人数
ひとり親世帯	31
両親のいる世帯	18
多子世帯	6
祖父母世帯	3
その他(里親)	1
生活保護世帯	2

〔表3〕

世帯が抱える課題(重複あり)	数
親に障がいや病気がある	17
親の育ちの連鎖	13
生活環境	9
兄姉が弟妹の世話をする	8
家族関係	7
外国籍で文化や言葉の違い	6
地域から孤立	2

■どのような流れでサポートを行っていますか。

町村社会福祉協議会等は、子どもをサポートする「学習支援協力員」の発掘、登録、研修などを行うとともに、学校を通して保護者から申し込みがあると、支援会議を開催しアセスメントをもとにした個別支援計画を立てます。その内容に沿って、子どもと学習支援協力員のマッチングを行いサポート開始となります。

学習支援協力員は、教員経験者や民生委員の他、様々な特技を持ったボランティア等、地域の皆さんに担っていただいています。

■実際に支援した取組を教えてください。

ドリルや教科書の学習支援だけでなく、農作業、調理、手芸、図書館や公共交通機関の利用支援など多様な支援を行ってきました。その子の得意や強み、関心のあることを大切にしながら、生きる力を育む体験活動やボランティア活動などにも取り組んでいます。

たとえば…

受験を控えた中学3年生に、志望校の見学の付き添いや面接の練習、参考書の購入に同行。電車の乗り方を習得するなど高校進学に備えたサポートをしました。高校進学後も支援を継続して中退防止につなげています。



家や学校に居場所がない子どものために、社会福祉協議会では新たな居場所を作って対応したり、子育て支援を行う団体とも連携しています。



世帯の課題が複雑で、朝食がない子どもに「おにぎり」を届けることから信頼関係を築き、世帯を含めたサポートにつなげています。



■成果と課題、今後の抱負をお願いします

学校や町村内の関係機関と連携体制を整えたことで福祉と教育の連携ができるようになりました。「登校ができるようになった」、「高校へ進学ができた」等、自立へのサポートができました。その反面、支援につながりにくいケースもあります。「保護者から理解を得られない」、「子ども自身にやる気がない」、「人と接することができない」等、理由は様々です。

コロナ禍では、感染症対策を徹底することで個別支援を継続し、手紙やメール等を通してつながりを持ち続けました。学校とも緊密に連携し、できることを模索しノウハウの蓄積をしています。

子どもたちは成長過程にあり、発達段階に応じて対応も違います。子どもの「気持ちの波」に合わせて寄り添っていくことが重要です。今後も子どもを中心に関係機関との連携を深め、地域の様々な力を得て、子どもたちが夢をもって生きていけるようサポートに取り組んでまいります。



社会福祉法人上田市社会福祉協議会 子ども服リユース事業

「ふくふくひろば」

リユース(Reuse)とは、誰かが使用しなくなった物やその一部を、そのまま誰かが使用すること。つまり、形を変えずに繰り返し使うこと(再利用)です。リユース活動は、最終処分されるゴミや製造過程で必要になる天然資源を減らすこと等の効果があるため、世界中で取り組まれています。しかし、その効果は環境問題だけにはとどまりません。実は地域福祉の視点からも非常に多くの効果が期待できます。そこで今回は、今年度から上田市社会福祉協議会(以下、上田市社協)でスタートした“ふくふくひろば”を紹介します。

きっかけは一人の市民からの相談

上田市社協では、寄付を必要な人に届ける善意銀行を行っています。その中で「ぜひ子ども服を取り扱って欲しい」という相談を受けました。何かこの方の思いに応える方法はないか、上田市内で他にも子ども服を必要としている人がいるのではないかなど、そんな思いから誕生したのが“ふくふくひろば”です。



「ふくふくひろば」の常時開設のキックオフイベント、リユース会(無料頒布会)では、約700点の洋服が集まりました。

名前の由来はふく(服)とふく(福)がつながる場。図1にあるルールを守れば誰でも利用できます。「スペース等の都合で、どこまで市民の皆様の要望に応えられるかわかりませんが、誰でも気持ちよく利用できるものにしたいです」と担当の新聞さん。皆さんの意見や感想を積極的に聞くことで、より市民の方のニーズに、より支援を必要とする人に……。新聞さんのふくふくひろばに対する熱い思いが伝わります。

“もったいない”が、誰かのためにを生ま出す

ふくふくひろばは、着られなくなった洋服が人から人へと渡っていく際に、“何かしたい”“誰かのために”という思いも添えられています。「自分の息子が入学式に来たブレザー、捨ててしまうのはもったいない気がしてどなたかに使っていただければと思い提供しました(アンケートより)」という寄付者の思いは、洋服の動きとともに感謝の思いを生ま出します。その感謝の思いは、“今度は誰かのために”となり、どんどんと連鎖し、社会を良くしようとする大きなうねりができます。また、洋服があれば参加できるふくふくひろばは、幅広い層の参加が期待され社会課題を考えるきっかけにもなります。持続可能な社会を目指すことが命題となっている現在、一人の相談から生まれたふくふくひろば。その可能性に注目です。



サイズごとに整理されており、探しやすいレイアウトになっていますね。



気持ちよく着てもらうために、汚れやシミがないか確認しています。

〔図1〕

子ども服が欲しい方

開設時間：月～金曜日の9時～17時
(土、日、祝日、年末年始は休み)
場 所：上田市ふれあい福祉センター2階
(上田市中央3-5-1)
※1回につき10点までお持ち帰りできます。
※お持ち帰りにマイバッグ等が必要です。

子ども服を提供いただける方

●新生児用～140cmまでの子ども服
(洗濯済みでシミ、汚れ、毛玉等が無く、他の人に気持ち良く着ていただけるもの)
●肌着等、直接肌に触れるものは新品未使用品のみ
※1回の持ち込みは20点までです。
※サイズごとに分けてお持ち込みください。

お問い合わせ先 **社会福祉法人上田市社会福祉協議会** TEL.0268-27-2025

社会福祉 HERO'S

ウェブサイト「ひとりひとりが社会福祉HERO'S」から引用しています。
http://www.shafuku-heros.com/

福祉の現場で活躍する
ヒーローたちをご紹介します。



国立大学法人信州大学教育学部
村松浩幸研究室FabLab長野の皆さん



webでも
ご覧になります

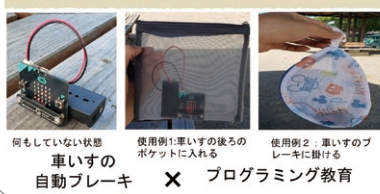


【チーム:トイメーカーズ】子どもたちのストレスケアを考えた遊びの提案



【チーム:肉塊】様々な状況を伝えるコールボタン制作に取り組む

日常生活における使用例



何もしていない状態
使用例1車いすの後ろのポケットに入れる
使用例2 車いすのブレーキに掛ける
車いすの自動ブレーキ X プログラミング教育

長野県社会福祉法人経営者協議会
会長賞受賞作品【チーム we'llチェア】



【チーム:we'llチェア】車いすの忘れ忘れを防ぐアラーム装置を開発する

である教育の知見をさらに広げることにもつながりました。

今回の課題を解決するため、授業で学んでいることや実習での経験をもとに考え、色々なアイデアを思いつくことが出来ました。福祉の課題に取り組むことで、自分たちの専門

Q 教育学部ものづくり・技術教育コースの特徴を教えてください。
A 創るという新発想と学びを育む学部です。楽しく、役立ち、奥が深いものづくりから広がる世界を伝えられる未来の教員などを目指している学生が学んでいます。
Q 車いすの課題に取り組むと思ったきっかけは？
A 車いすを使っているのは高齢者ばかりではなく、身体に障がいある小中学生なども使っています。

Q 今年度の受賞作品はどちらよりご覧ください。
信州大学教育学部ものづくり・技術教育コースより3チームが、介護現場ニーズの対応や災害時のストレスケアなど課題解決に向けた取組でコンテストに作品を応募してくれました。今回は、車いすのブレーキ忘れ防止アラームの制作に取り組んだチームwe'llチェアのメンバーにお話を伺いました。



福祉介護分野のイノベーションを進めていくことを目的に、工学やデザイン等の様々な分野で学ぶ学生等の皆様から、各専門分野の知識を活かして福祉介護の課題を解決する信州発の「信州共生みらいアイデアコンテスト2020(以下、コンテスト)」を開催しました。今年度は、一般から学生までの80チームが参加しました。

ます。幅広い世代に対応でき、簡単に制作できるシステムとして作品を開発しました。
Q 作品の特徴工夫を教えてください。
A コロナ渦のため、メンバーが直接集まり作品を制作するための時間確保が大変でした。しかし、オンラインでの話し合いを重ねながら進めてきました。

この作品は既存の基盤を流用しているため、ブロックのように組み立てるだけでアラームのプログラミングが完成します。そのため、利用者が自分自身の手で「T」ズに合わせた改造を行えるような仕組みとしています。
Q コンテストに取り組んだ感想を聞かせてください。
A 今回の課題を解決するため、授業で学んでいることや実習での経験をもとに考え、色々なアイデアを思いつくことが出来ました。福祉の課題に取り組むことで、自分たちの専門

●ご感想、お問合せ、掲載希望等は下記へお寄せください。

長野県社会福祉協議会
総務企画部 企画グループ
TEL 026-228-4244
FAX 026-228-0130
E-mail kikaku@nsyakyo.or.jp

webでもご覧になります

長野県社会福祉協議会 福祉・介護べり帖



長野県福祉研修実施団体 きゃりあねっと

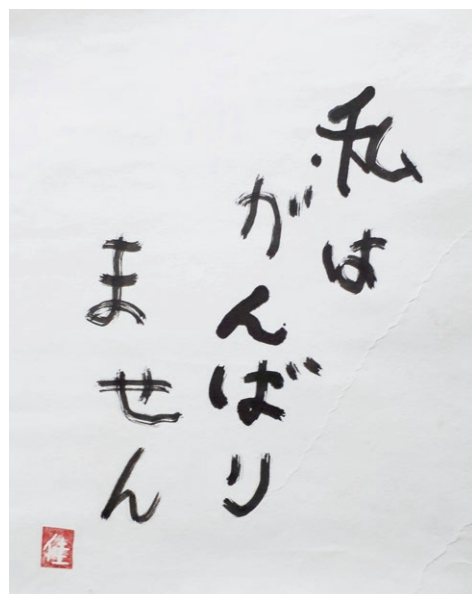
信州福祉・介護のひろば



ざわめくアート

墨書 和紙、墨

作者:たんぼぼ(ペンネーム) 60代 女性
安曇野市在住



たんぼぼさんは、精神障害のある人が集う場に、調子が良ければ顔を出す。ややこしい周囲との関係に疲れ、ストレスをため込んで心の調子をくずしてしまい、それに伴いあちこちの不調も訴えている。本来はとても明るく楽しい方なのだが、調子が悪くても家事をこなし、子育ても頑張ってきたが、それを評価はしてもらえず、さらにあれこれ言われることに疲れ果ててしまったと言う。『こんなに頑張ってきたのに、まだがんばられていわれてもなあ・・・』と深いため息を吐かれる。そこで書いていただいたのがこの言葉である。

(ながのアートミーティング 取材)